

■獅子文六(岩田豊雄) 新劇興隆に尽くし、映画化されたユーモア小説多数、戦中に本名で傑作「海軍」と、八面六臂の活躍。
ししぶんろく
郡司千島探検1893＝ 横浜で、旧中津藩士で福沢諭吉の影響を受けて貿易商となった岩田茂穂の長男に生まれる。母はアサジ。
日清戦争始・1894＝ 1歳：父が居留地に店舗を出す。後に札幌グランドホテル社長になる弟彦二郎が誕生。

Bushidou・・1899＝ 6歳：市立老松小学校に入学。

教科書疑獄・1902＝ 9歳：父が死去。
日比谷公園・1903＝10歳：慶応義塾幼稚舎5年に転学し、寄宿舎に入る。

日露戦争終・1905＝12歳：慶応義塾普通部に進む。

この間、店の規模は縮小し、家も引越しを重ね、

伊藤博文暗殺1909＝16歳：ついに廃業。一家で東京に転居。
韓国併合・・1910＝17歳：この年、姉が結婚。文学に興味を持つようになり、回覧雑誌を作り始める。
大逆事件判決1911＝18歳：普通部を卒業し、慶応義塾大学理財部予科に進学するが、
明治天皇没・1912＝19歳：
大正政変・・1913＝20歳：文科部予科に転じ、

大暴落・・・1920＝27歳：母が死去。弟が既に商大を卒業していたことから、文学で身を立てる決心を固め、
原敬首相暗殺1921＝28歳：
水平社結成・1922＝29歳：中退し、父の遺産を使って渡仏、パリ滞在中にJ. コポーらの近代演劇運動に触発されて、
関東大震災・1923＝30歳：マリー・ショウミイと恋愛。演劇の研究を始める。

治安維持法・1925＝32歳：妻マリーを伴って帰国。長女巴絵が誕生。
円本時代始・1926＝33歳：演劇関係の仕事を持って印税を得るも、家計の大半は妻マリーのフランス語教師の報酬で、
金融恐慌・・1927＝34歳：「近代劇全集」フランス編、イタリア編を翻訳。岸田国士や久保田万太郎と知りあって、
共産党事件・1928＝35歳：*演劇活動に入り、3年にわたり岸田らと(新劇研究所)を経営して新人を育成するなど、新劇興隆に尽力。
世界恐慌・・1929＝36歳：
海軍軍縮条約1930＝37歳：妻が発病。長女を朝鮮平壤の姉夫婦に預け、妻の郷里パリでの療養に同行、
満州事変・・1931＝38歳：単身帰国。長女を引き取り、東京の伯母の家に住む。翻訳「ファブル昆虫記 第1巻」。演劇の処女作「脚のあるパリ風景」、
五一五事件・1932＝39歳：妻がパリで死去。
国際連盟脱退1933＝40歳：明治大学講師。「戯曲「東は東」を発表。
帝人疑獄事件1934＝41歳：富永シヅ子と再婚し、千駄ヶ谷に住む。*生活のためにと、獅子文六の名で連載した長編小説「金色青春譜」の成功を契機にユーモア小説作家となる。ルナール作・岩田豊雄訳「緒毛(にんじん)」初演。

二二六事件・1936＝43歳：翻訳ダビ「北ホテル」。「金色青春譜・浮世酒場」「楽天公子」。「遊覧列車」などで直木賞候補になり、「悦ちゃん」がすぐに映画化されるなど、原稿料で生活可能になる。
日中戦争始・1937＝44歳：「達磨町七番地」「青春売場日記」「舶来雑貨店」。「久保田万太郎・岸田国士と共に、自ら命名した劇団(文学座)を創立し、以後3者で幹事(のちに顧問)を務めながら、
健保+総動員 1938＝45歳：「胡椒息子」「青空部隊」。「信子」、
第二次大戦始1939＝46歳：「沙羅乙女」。翌年にかけて、立て続けに3作品が映画化される。
大政翼賛会・1940＝47歳：「断髪女中」「東京温泉」「牡丹亭雜記」。演劇については生涯本名で「近代劇以後 紹介と随筆」、
日米開戦・・1941＝48歳：「南の風」「太陽先生」「虹の工場」「女軍」、
・・・・・1942＝49歳：姉が死去。「おばあさん」「將軍鮎を釣らず」。演劇「劇場と書斎」。本名で連載し代表作となった「海軍」は、
創価学会検挙1943＝50歳：中野の亡姉の家に転居。「牡丹亭新記」「海軍随筆」。演劇「フランスの芝居」「雑感 劇について」。朝日文化賞を受け、映画化される。
年金+総武装 1944＝51歳：海軍報道部囑託。神奈川県吉浜町に疎開。
敗戦・・・・1945＝52歳：空襲で中野の留守宅が全焼。敗戦後、妻の郷里愛媛県に再疎開。
新憲法施行・1947＝54歳：東京に戻り、神田駿河台の主婦之友寮に入る。追放指令あるも、すぐ解除。「二階の女」、
極東裁判決・1948＝55歳：「南国滑稽譚」。演劇「新しい芝居」。井上ひさし「吉里吉里人」の先駆をなす「てんやわんや」、
三大事件・・1949＝56歳：「舶来雑貨店」「おちいさん」「西洋色豪伝」「随筆てんやわんや」、
朝鮮戦争始・1950＝57歳：妻が死去。長女と大磯に転居。「山の手の子」。「自由学校」連載し、
独立回復・・1951＝58歳：胃潰瘍で入院し手術。元男爵の娘吉川幸子と再々婚。長女が結婚。「太平洋滑稽譚」「嵐というらむ」。松竹と大映で競作映画化、
メーデー事件・ 1952＝59歳：翻訳ジュール・ロマン「クノック」。「へなへな随筆」「やつさもつさ」、
TV放送始・・1953＝60歳：長男が誕生。イギリス女王戴冠式参列のため外遊。「長女を育てた自伝的小説「娘と私」を連載。
自衛隊発足・1954＝61歳：長く親交してきた岸田国士が死去。演劇「観覧席にて」。「青春怪談」が、
55年体制始・1955＝62歳：「あちら話こちら話」。*日活と新東宝で競作映画化されるほど、人気を博し、
国連加盟・・1956＝63歳：演劇「新劇と私」。グルメぶり示す「飲み食ひの話」。翌々年にかけて「大番」連載。
なべ底不況・1957＝64歳：「愚連隊」「遊べ遊べ」「夫婦百景」、
インフレーション・1958＝65歳：赤坂に転居。「探偵女房」「ドイツの執念」、
美智子妃・・1959＝66歳：「東京の悪口」「すれちがい夫婦」「ロボッチイヌ」。業界描いた「バナナ」、
安保闘争・・1960＝67歳：東海道線の特急電車を描いた「七時間半」、
タイタイ病始・1961＝68歳：「石川武美歌ノート五万首から」「その辺まで」「べつの鍵」。グルメぶり示す「飲み・食ひ・書く」。箱根の開発競争を描いた「箱根山」など業界物小説も得意。「娘と私」はNHK朝の連続テレビ小説(初代作品)になった。
TV宇宙中継始1963＝70歳：「アンデルさんの記」。久保田万太郎も死去したことから{文学座}を退団するも、精神的支柱として、座員はもとより、脱退した劇団(雲)・劇団(NLT)の面々からも信頼を一手に受け続ける。「岩田豊雄演劇評論集」「岩田豊雄創作翻訳戯曲集」。「可否道」まで実に30作品が映画化された。日本芸術院賞を受け、
東京リビック 1964＝71歳：「随筆町子」「ある美人の一生」「南の男」「谷間の女」。芸術院会員となる。
大学紛争始・1965＝72歳：「父の乳」、
いざなぎ景気1966＝73歳：「ちんちん電車」、
美濃部都知事1967＝74歳：「但馬太郎治伝」では、モデルとした薩摩治郎八を有名にするなど、八面六臂の活躍をし、
震ヶ関ビル・ 1968＝75歳：以後3年かけて「獅子文六全集(全16巻)」が刊行され、
全共闘・・・1969＝76歳：「愚者の樂園」「好食つれづれ草」。文化勲章受章し、同時に文化功労者となるも、脳出血のため、没した。